

【別紙様式 1】

令和 3 年度学校経営計画表（定時制・夜間制）

1 学校の現況

学校番号	22			学校名			県立水戸南高等学校			課程		定時制、通信制		学校長名		川内 孝雄				
教頭名	菅谷 則行 (定時制・昼間制)			小坪 正代 (定時制・夜間制)			井上 宏孝 (通信制)					事務室長名		千葉 一夫						
教職員数	教諭	66	養護教諭	2	常勤講師	5	非常勤講師	13	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	6	技術職員等	9	計	102				
生徒数	課程・学科			1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス						
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							
	定時制(昼)普通科			30	24	40	25	32	27	9	7	111	83	8						
	定時制(夜)普通科			5	2	8	6	8	1	1	2	22	11	4						
	通信制	普通科		46	74	62	74	56	75	57	80	221	303	24						
	ライフデザイン科		17	27	11	22	11	25			39	74	3							

2 目指す学校像

「生徒一人一人のニーズ・スタイルを尊重し、学校本来の大切さを日々感じる高校」
単位制で作る自分の時間割、生活スタイルで選べる3つの課程、手厚い指導体制を生かしたセルフプロデュースの学習を実現する。
JR水戸駅から徒歩圏内の利便性と、緑に囲まれた閑静な環境を生かして、持続可能な心豊かな学びを実現する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
進路指導	昨年度、卒業生の就職内定者数は6名に増加した。（一昨年度2名）しかし、不登校により欠席の多い生徒、コミュニケーション能力が不足している生徒や勤労観・職業観が未熟な生徒も少なくない。	・望ましい勤労観・職業観の育成 ・組織的・体系的なキャリア教育の充実 ・進路選択における生徒の主体性の育成 ・進学希望者への対応
学習指導	経済的事情もあり、進学者は少ない。義務教育段階の学習内容の定着が不十分な生徒が多く、学習の習慣が身につけていない生徒が多い。学校での授業は75.7%の生徒が「授業に真剣に取り組んでいる」と答えているが、家庭学習においては35.1%がしていると答えているのみである。自分に自信が持てない生徒や、コミュニケーション能力の乏しい生徒も多い。	・学習習慣の確立と家庭学習の促進（45%をめざす。） ・基礎学力の定着 ・学習意欲を高める指導の工夫と、個に応じた体験的・問題解決的な学習の促進 ・言語活動の充実
生徒指導	心因性の不登校ばかりでなく怠学的傾向がある生徒、基本的な生活習慣・規範意識や公共心に欠ける生徒等、様々な問題を抱えた多様な生徒が存在している。	・生徒理解の深化による信頼関係の構築 ・基本的な生活習慣、規範意識、公共心や道徳性の育成 ・学校全体としての組織的、計画的な生徒指導
特別活動	中学校時代に不登校を経験した生徒が多く、集団生活にうまくなじめない生徒が増えている。コミュニケーション能力の不足など、社会性に欠け、良好な集団生活ができない	・望ましい人間関係の構築や、よりよい学校生活を築こうとする自主的態度の育成 ・学校行事、定通体育大会や生活体験発表

	い生徒が増えている。生徒全体の69%が特別活動の出席率が8割を超えている。資源ゴミ回収や介護体験講座を実施し、生徒全員がボランティア活動の在り方を考える機会を設けている。	- 会等への参加率の向上。 - キャリア・パスポートの効果的な活用 - 校外のボランティア活動の推奨
働き方改革	令和2年6月及び10月の超過勤務時間の平均は4.5時間となっており、前年度より減少した。しかし、勤務時間の終了時刻が21時30となっているため、少しの超過であっても、深夜になってしまう。	- 計画的な校務の遂行 - 校務分掌内での協働体制の構築

4 中期の目標

1	よりよい進路選択をするため、自ら情報を収集し、実現に向けて計画的に進める能力の育成を目指す。進路ガイドダンスやキャリア・パスポートの積極的な活用を通して、低学年からキャリア教育を推進し、進路意識を高めていく。
2	文化やスポーツの能力を伸長する生徒、働きながら学ぶ生徒にも対応できる、単位制や三課程の特色を生かした普通科教育の場として、中学校卒業の生徒が進路先として選ぶ高校であることを定着させる。
3	交通至便な立地にある静かな学びの場で、小中学校で不登校を経験した生徒などが落ち着いて学習できる環境を提供するとともに、学び直しや中途入学の高校として、一人一人の目標実現に寄与する。
4	髪型や服装の制約やストレスがなく、生徒が自分自身と向き合う場として、学校本来の大切さを感じることができるオーソドックスな高校であることを中学校や社会に周知する。
5	教職員一人一人が働き方改革に取り組み、自らの授業を磨くとともに、日々の生活の質や教職人生を豊にすることとで、自らの人間性や創造性を高め、生徒に対して効果的な教育活動を行う。
6	自他の生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるとともに、自己が生来もつリソース（強み）に気づき、個性の伸長を目指す姿勢を身に付けさせる。

5 本年度の重点目標（定時制・夜間制）

重点項目	重点目標
職業観を育むキャリア教育の推進	・教育活動全体を通じて、組織的・系統的なキャリア教育を更に充実させ、卒業生の進路未決定者を30%未満に縮減する。（昨年度40%） ・進路実現に向けて主体的に考え、取り組む態度を養うため、進路だよりを年3回以上配布し、進路に関する情報提供に努める。 ・進路面談を年4回実施し、個々の生徒へのサポートをより充実させ、きめ細かに一人一人のキャリア発達を支援する。 ・ジョブカフェやハローワーク等の外部機関と連携して、見学会や講演会を実施する。また、生徒の進路行事出席率50%以上を目指す。
基礎的・基本的な知識・技能の習得とICTを活用した分かりやすい授業をこころがけ、思考力、判断力、表現力等を育む個に応じた授業の工夫	・課題の確認を通して生徒一人一人の学習状況を把握するとともに、学習形態や指導方法を工夫し、個に応じたきめ細かな学習指導を行う。 ・進路希望実現に向けて年3回の実力テスト【コンテスト形式】を実施し、一般常識・基礎学力等での定着を図る。 ・ICTを活用した分かりやすい授業を心がけ、生徒が達成感を得られる授業の工夫と、個に応じた体験的・問題解決的な学習の促進を目指す。
生徒指導及び道徳教育の推進	・外部機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携を図りながら、教育相談体制を充実させ、種々の課題を抱えた生徒に対して共感的理解に立って各種支援を行う。面談希望者には100%担保する。 ・外部機関との連携を充実させ、教員集団の共通理解のもと組織的・計画的

	な生徒指導を行うことで、基本的生活習慣を確立させる。また、「道徳」と「道徳プラス」の授業をさらに充実させることにより、道徳的な判断力や実践意欲と態度の育成を図る。 ・「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め実態把握や対応を適切に行う。「生活アンケート」の回収率100%を目指す。
特別活動の充実	・生活体験発表会や南祭に向けホームルーム活動や生徒会活動を活性化させ、望ましい人間関係を形成するとともに自己肯定感・自己有用感を育む。 ・行事への主体的な取組により、協力して諸問題を解決しようとする実践的な態度を育て、いじめを排除する空気をもった生徒集団を構築する。 ・南高スピリットアッププログラムを効果的に活用するなど学校行事を充実させ、集団への帰属意識や連帯感を深め、公共の精神を養う。 ・定通体育大会や生活体験発表会等への参加を奨励し、活動者数の増加に努める。生活体験発表会は10名以上の参加を目指す。 ・キャリア・パスポートを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を振り返りながら自己実現につなげていく。 ・校外のボランティア活動の積極的な参加を推奨し、地域社会のつながりとともに、一人一人の自己肯定感を高める。
教職員の資質の向上 (働き方改革)	・生徒たちが予測困難な社会を生き抜く力を育成するために、教職員が学び続ける意欲をもつとともに、チーム学校による共同を推進し、資質の向上を目指す。 ・ICT活用やスクラップ・アンド・ビルドによる事務作業等の負担軽減や勤務時間の在り方について意識改革を図る。
情報発信による学校への理解促進	・ホームページや広報誌、学校パンフレット等のPR手段を十分に活用して、保護者・地域に対し、積極的に情報を提供する。 ・学校評議員や中学校等の意見を参考にしながら教育活動を展開する。 ・学校公開を計画的に実施して、本校に対する理解促進を図る。